

### 53 酒匂川と足柄の歴史（1）

6 月のある日、足柄の歴史再発見クラブという団体の代表である小林秀樹さんという初老しよらうの方の訪問を受けました。5 月に「新編 富士山と酒匂川」という本を出版したという情報を得たので、購入したいとメールで連絡したところ、わざわざ本を届けてくださったのです。

この本は、「校長室より NO. 1」で紹介したような、水にまつわる足柄地域の歴史がわかりやすく書かれている本でした。この本を下敷したじききにしながら、私が若いころ寄稿きこうした「新・神奈川県の地理」の内容を織りまぜて、酒匂川と足柄の歴史について何回かに分けて書いてみようと思います。

箱根の入口の「入生田いりゆうだ」というところに「県立生命の星地球博物館」があります。行ったことがある人も多いのではないのでしょうか。ここの展示で、丹沢山地や箱根山を含む伊豆半島が南の海から移動し、日本列島に衝突しょうとつして現在のような地形になった様子が展示されています。その後箱根山は富士山とともに活発な火山活動を繰り返し、関東各地にたくさんの火山灰を降らしたり、周辺に溶岩や火砕流かさいりゅうによる丘陵きゅうりゅうをつくりました。足柄高校のある関本丘陵も 8～6 万年前の箱根山の大火砕流で噴石や火山灰が積もってできました。自然の力はすごいですね。

ちなみに丹沢山地では火山の噴火はありませんでしたが、山の下には噴火せずに固まった溶岩の名残があるようで、おかげで周辺には、中川温泉、鶴巻温泉、七沢温泉などの温泉が湧いて観光地となっています。

さて、この酒匂川ですが、富士山の麓ふもとや丹沢山地を源流とし、静岡県内では鮎沢川あゆさわがわと言われています。静岡県から神奈川県に抜けて川の名前が変わるあたりで最も険しい谷を刻み、流れも急になっています。東名高速や国道 246 号線ごてんぼで御殿場に向かうときに、トンネルの合間にこの険しい谷を見ることができます。御殿場線からの見える景色もなかなかの壮観ですよ。

さて、源流から河口までの流れがどのくらい急であることを示す専門用語で「河床勾配かしょうこうばい」がありますが、酒匂川は富山の常願寺川じょうがんじがわ、静岡の安部川と肩を並べる、日本有数の急勾配きゅうこうばいの河川です。（ちなみに明治時代に常願寺川の治水工事にきたオランダ人技師のヨハニス・デ・レーケは、常願寺川のことを「これは川でなく滝である」と言ったそうです。）急勾配の河川につきものなのが、大雨などによる氾濫はんらんすなわち洪水です。堤防に松の木を植えた二宮尊徳にのみやそんとく（金次郎）に代表される、暴れ川である酒匂川と足柄地域の人々の闘たたかいいの歴史は、このような自然条件のもとで始まっているのです。

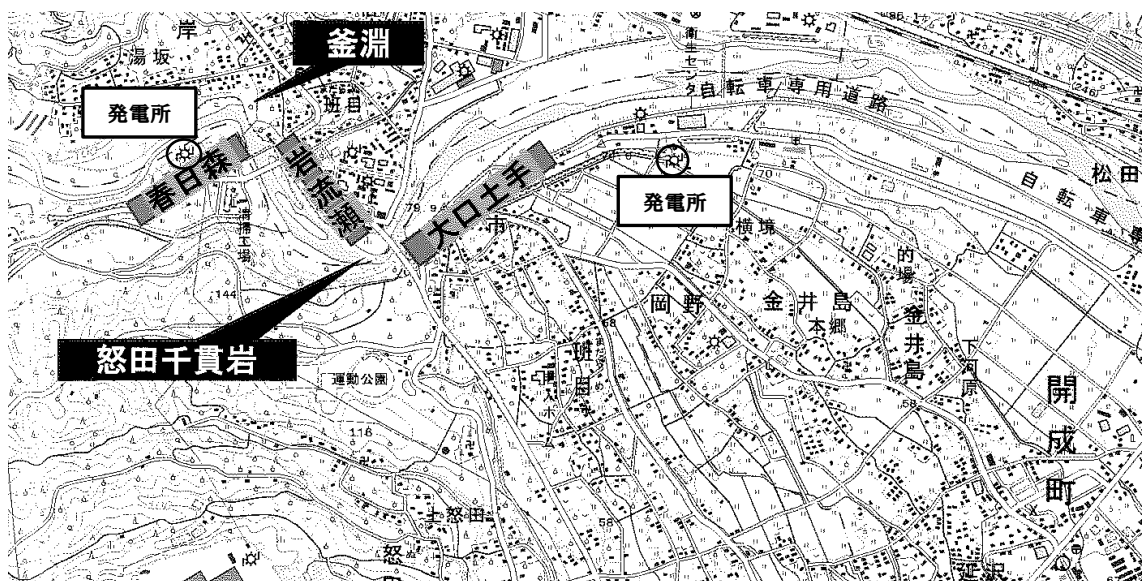
足柄高校の下の切通し交差点を北に進むと、新大口橋で酒匂川を渡ります。大きな工場が右手に見えますが、この先に「岩流瀬」という地名の場所があります。読み方が難しいですが、「がらせ」と読みます。周りの景色を見ると地名の由来は一目瞭然いちもくりょうぜんで、川岸に大きな岩石がごろごろところがっています。上流の岩肌いわはだが侵食しんしょくされて流れ運ばれた岩石が、河川の勾配がゆるやかになったので、堆積たいせきするようになったからです。

また、周囲をみると発電所があつたりします。このあたりで勾配が変わるために、上流とこの場所の落差を利用して、地下トンネルを利用した水力発電が行われているのです。

NO.1で説明したように、この場所から足柄平野は始まりますが、最初は扇状地<sup>せんじょうち</sup>という少し傾斜<sup>けいしや</sup>のある平野です。生徒の中には秦野<sup>あいの</sup>に住んでいる人もいますよね。秦野も水無川<sup>みづながは</sup>の氾濫<sup>はんらん</sup>でできた扇状地の上に市街地が広がっていることを知っていますか。秦野総合高校や震生湖<sup>あらしうみ</sup>などがある渋沢丘陵<sup>しぶさわきゅうりやう</sup>が隆起する前は、平塚方面に向けてきれいな扇形の地形だったと思われます。秦野の場合、堆積した土砂の目が粗<sup>あら</sup>かったので、川底に水が染み込んでしまうことが多く、「水無川」と呼ばれることになってしまい、また水田を営むことを難しかったために、たばこや落花生など畑作物<sup>さいばい</sup>の栽培が盛んになりました。

話は酒匂川に戻りますが、酒匂川が扇状地をつくる前の上流部分をみると、川筋が何度も折れ曲がるようになっていますね。これは天然の地形を利用しながら川の流れをコントロールし、岩場や沼地に強い流れがあたるようにして水流を弱めるという人手の入った地形なのです。具体的には春日森土手<sup>かすがもりどて</sup>で釜淵<sup>かまふち</sup>に水をあて、岩流瀬土手<sup>ぬだせん</sup>で怒田千貫岩<sup>ぬだせん</sup>に水をあて、大口土手<sup>おほくち</sup>（文命東堤）で松田町がわに大きく弧を描くように迂回させて少しずつ酒匂川の流速を抑えているのです。すごいですね。

ところで、山梨県の人は武田信玄<sup>たけだしんげん</sup>のことを呼び捨てしないって知っていますか？「信玄様」と今でも尊敬して呼ばれるそうです。武田信玄の治水工事はとても有名で、甲府盆地の氾濫を少なくして生産力をあげ、戦国大名として全国に名をはせました。武田信玄の行った治水工事については、これからも何度か紹介しますが、御勅使川<sup>みだいがわ</sup>という釜無川<sup>かまながわ</sup>（富士川）の支流の流れを、地面を掘り進めて新しい流路<sup>りゅうろう</sup>をつくることで変え、竜王高岩<sup>りゅうおう</sup>という崖にぶつけて釜無川に流れ込むようにしたことが知られています。岩にぶつけて水のスピードを落としたのです。酒匂川と考え方は同じですね。



地図は「新編富士山と酒匂川」より転載